



漫画家になりたい若者の話

彼が17歳のとき。
短編マンガが準入選に選ばれ、担当編集者がついてくれることになり、
気をよくした彼は九州から東京に上京してきます。

当時は、すぐトップになれるぐらいの気持ちだったそうです。
しかし、甘くはなかった……。
作品のネーム（あらすじ）を提出しても全然通らない。
連載にはいたりませんでした。描いても描いてもボツになる……。

「さすがに自分の力のなさに気づいて、そうすると壁がどんどん高く見えてくるわけです。1週間で19ページも面白いマンガを描き続けるなんていうのは、人間にできる技じゃない。マンガ家になるべくして生まれた人にしかできないことなんだと思うようになって、ショックでしたよ。」

描いても描いてもボツになる。描いても描いてもボツになる。描いても描いてもボツになる……。

彼は、ついに倒れて、1週間ほど体が動かなくなったそうです。
もう、マンガ家になることを諦めようとした。サラリーマンに今からなれるかなとも考えた……。

でも、そのとき、当時の担当編集者がこう言葉をかけてくれたのだとか。

「こんなに頑張って報われなかったヤツを、俺は今まで見たことがない」

必ず報われる日がくる、と……。

ケンカばかりしていたその編集者が、ふと言ってくれた言葉に
彼は泣いた。とことん泣いた……。

「また頑張れるぞ」気力が湧いてきた。

「泣く」という文字は「涙」のさんずいに「立」という字を書きます。

涙のあとに立ち上がり、彼が描きあげた作品が……

そう、あの国民的マンガ、「ONE PIECE」（ワンピース）なんです。

彼の名前は、尾田栄一郎さんです。

人生というシナリオには法則があります。

トコトン頑張って、それでも結果は出ず……。
「もうダメだ」と力尽きるその瞬間に……。
あなたの人生を一変するシーン（名場面）
と出会うようになっているのです。

まさに「ONE PIECE」の世界観そのものです。
人は、力尽きるころまで頑張ったとき
尽きることのない無限の力が湧きあがるのです。

ONE PIECE誕生秘話より

いよいよ、県立入試に向かう時期となりました。今しかできないことをとことん頑張ってみましょう。
彼も人なり 我も人なり

